

| | | |
|----------|------------------------|--------------------------|
| 会員数 | 37,919 | (前月比) + 57 |
| 郵送 | 9,407 | (前月比) - 60 |
| 手配り | 26,682 | (前月比) + 68 |
| 協同基金到達額 | 2,488,439,000円(1/31現在) | [前月比 9,231,000増] |
| 協同基金出資者数 | 18,370名(1/31現在) | いのちを守る助け合い募金額 0円(1/1~31) |



2019
3
No.426

発行 健康友の会 みみはら
本部事務局組織部
機関紙編集委員会
〒590-0821
堺市堺区大仙西町6丁184-2
Tel.072-244-8061
Fax.072-244-7860
1部30円



講師の中山徹奈良女子大学教授



司会の畠山さん

日本は高齢化のスピードは、世界一に驚きの声が…。統計上は65歳からを高齢者としてカウントしますが、今後世界一速いスピードで、日本社会の高齢化が進みます。

高齢者人口は35557万人で、比率が28%(2018年)。2060年には約40%になり、14歳以下の子どもの比率は12%という社会になります。

こうした国策に対抗して、市民本位の市民共同自治体をつくることが求められています。

このからの自治体行政は、本庁中心をやめて区役所の機能を強化し、行政が住民の状況をしっかりと把握できるようにします。そして、行政と市民(地域のコミュニティ)の両輪で力を合わせるのであります。年をとっても住み続けられるまちづくりには、細やかな施策が必要で、市役所→区役所→出張所(日常生活圏の単位)と行政の地域化が不可欠です。

ともに歩み、ともに創る
みみはら協同基金へのご協力をお願いいたします

- 同仁会の医療・介護事業を支える大切な資金として活用いたします
- 「寄付」ではなくお預かりするのですが、利息や配当はありません
- お預かりする期間は原則5年以上です
- お申し出のない場合は自動継続となりますが、必要な場合はいつでも出金できます

協同基金のお申し込み、積み立ては各事業所でも受け付けています

みみはらとは
協同基金

進む人口減少と高齢化社会

2008年がピーク
2100年は5000万人

毎年恒例の堺社会保障推進協議会主催の新春講演会。1月26日に堺市産業振興センターで開催されました。当日は、この冬一番くらいの寒い日でしたが、友の会からもたくさん参加がありました。講師の中山徹奈良女子大学教授は、まちづくりが専門であることから、私たちにもたいへん興味深いお話をしました。(講演内容の要旨を紹介します)

新春講演会
主催
堺社会保障推進協議会

超高齢社会! 私たちのめざす 社会保障とまちづくり

コンパクトシティと コミュニティビジネス

「行政の補助金に頼るなー」の方向へ

国は今後、市町村の役割を変えようとしています。町の中心部に人を寄せてコンパクトシティにし、公共施設や住民サービスなどを減らそうとうのです。市町村は、直接に住民サービスをするのではなく、

仕組みをつくりチェックするだけの役割に変化させようとしています。財源は行政の補助金ではなく、住民の自衛会やNPOや企業などに担わせるのです。(コミュニティビジネス)

2、3あるくらいのイメージの出張所(駆け家の利用)

の5人の職員を配置する。そんなに大きな場所も必要ない。

5人の職員と会議室があるのに大きな場所も必要ない。

高齢社会の中で「安心して住み続けられるまちづくり」に向けて、私たちのめざす方向性が示された講演会でした。(事務局 南波)

1平方キロメートルで1万人くらいの範囲のこと。たとえば、出張所には、

● 高齢者担当

● 子育て支援担当

● 防災・まちづくり担当

● 社会教育担当

● 障害者担当

の5人の職員を配置する。

そんなに大きな場所も必要ない。

5人の職員と会議室があるのに大きな場所も必要ない。

高齢社会の中で「安心して住み続けられるまちづくり」に向けて、私たちのめざす方向性が示された講演会でした。(事務局 南波)



熱心に聞く参加者

台風21号は壇のすぐれすれ西側を北上し、最大瞬間風速70メートルで家々の瓦屋根を吹き飛ばした。街路樹や公園の木々も文字通り根そぎ倒され、こんなに大きく根を張ついても倒れるのかと驚いた。古墳の大木群も例外ではない、大仙(仁徳)、石津ヶ丘(履中)の墳丘植生は密集度が減じて古墳全体が貧相になってしまった。▼田出井山(反正)の近くで長年歯科医師をし考古学者でもある宮川徳先生が「よみがえる百舌鳥古墳群」(新泉社)を上梓された。少年の頃から古墳に親しみ、イタスケ古墳の保存運動ではその中心人物だった。前方後円墳の造営では後円部の円の直径の8等分を「区」とし、区の倍数で前方部長を決めたとの説をとつて聞いた。区は男性が両手を広げた長さ「ヒロ」を単位とする、これも倍数である。古市とともに百舌鳥古墳群の世界遺産登録推薦を市民に開かれた文化財保護の観点から、と訴えつつ応援している。▼先生のおはなしを初めて聞いたのは30年ほど前であった。古墳を通じて大陸との関係と被葬者や大王、天皇の系譜を研究することは日本を真に近代化するために必要だとおっしゃっていた。他国どうやって仲良くやっていくのか、日本と近隣の国々の歴史にきちんと目を向けることがその基礎であろう。そしてそれが平和を維持する力ともな

聴診器